

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

むつ・下北地区消防協会

1. はじめに(地域紹介)

むつ・^{しもきた}下北地域は青森県の最北部、本州最北端に位置し、太平洋、津軽海峡、陸奥湾の海に囲まれています。圏域総面積は約1,400平方キロメートルで青森県総面積の14.7パーセントを占めています。

日本三大霊場の一つ^{おそれざん}「恐山」、全国ブランドの「大間のマグロ」、海岸に奇岩が立ち並ぶ^{ほとけがうら}「仏ヶ浦」、寒風の中でじっと耐える寒立馬の^{かんだちめ}いる「尻屋崎」、海峡に浮かぶ“漁り火”を眺められる^{しりやざき}「下風呂温泉」などの観光資源を有しています。

平成28年9月9日に下北ジオパークとして認定され、「大地の公園」として、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所になっています。恐山や仏ヶ浦の他にも地質学的に珍しい資源がたくさんあり、ジオパークを通じて、大地や自然、文化、食などの地域資源を学び、保全し、来訪者や次の世代へ伝えていく活動を行っています。

<http://www.shimokita-geopark.com/>



2. 組織概要

むつ・下北地区消防協会はむつ市、大間町、東通村、風間浦村及び佐井村の1市1町3村の消防団で構成されています。各消防団の条例定数合計は2,315人となっていますが、実員数合計1,872人で、常備消防とともに地域管轄人口約74,000人の身体生命財産を火災等の災害から守っています。なお、事務局はむつ消防署に置いています。

3. 安全管理セミナー開催の経緯

当協会では操法大会と幹部連絡協議会を隔年で開催しています。平成29年度は副分団長以上を対象に幹部連絡協議会を開催しました。幹部連絡協議会はこちら数年では毎回、消防団員等公務災害補償等共済基金様のご協力を得ながら安全管理セミナーを行っており、今年度も同様としました。



4. 安全管理セミナー開催の様子

平成29年10月22日(日)10時から約2時間、むつ市内の「プラザホテルむつ」において開催しました。講師にはS-K Y T指導員の加藤豊明様を派遣していただき、参加者161人での開催となりました。

内容は、消防団員の事故を防止するため、テキストを活用して事故予防や安全対策が中心でした。特に健康管理の重要性については、自分の健康管理はもちろんのこと、活動前には他の団員の目を見て話し掛けることでしっかりと健康状況を観察する意識が必要だということで、参加者の意識が高まるお話でした。

最後には全員が起立し、「〇〇消防団ゼロ災でいこうヨシ!!」「一人ひとり大切な団員ヨシ!!」「今日も元気で消防団活動ヨシ!!」と指差し唱和で締めくくりました。

参加者アンケートでは「分団に持ち帰って活用したい」「若い団員に伝達したい」「団員への声掛けを続けていきたい」と、大変好評でした。



5. 終わりに

この地域は四方を海に囲まれ、南東の一部の陸続き部分を、その両海岸沿いに半島の大動脈である2本の国道が南北に走っています。

今冬、北陸地方の国道で長時間の通行止めが発生しましたが、当地域も平成24年2月、同じく豪雪により400台が立ち往生し国道が19時間も通行止めになった経験があります。これを機に除雪体制等が見直されましたが、豪雪に限らず地震や津波でも通行止めになりうるということ、この地域に住む我々は忘れてはなりません。万が一、大災害で国道寸断となれば、緊急消防援助隊など応援部隊の到着までには、他地域以上に多くの時間を要することになり、その間は、「この時に」「この地域に」いる人間だけで対処しなくてはなりません。このような時には、常備消防と連携しながら、消防団が地域密着性、組織力、機動力を十分に発揮し、その中心になって活動しなくてはなりません。

火災のみならず、自然災害等も日本各地で発生していますが、当協会は「いつでも、どこでも、なんでもある」という気持ちを持ち、防火思想の普及、消防団員の士気高揚及び消火等技術の向上に関する事業等を行うことにより、当地の防災力強化を図ってまいりたいと考えていますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

